

# メディカルシステム事業説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2021年6月10日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

富士フイルム ホールディングス株式会社 取締役  
富士フイルム株式会社 取締役 専務執行役員  
メディカルシステム事業部長

**後藤 禎一**



富士フイルム株式会社 執行役員  
メディカルシステム事業副部長

**秋山 雅孝**



富士フイルム株式会社  
メディカルシステム開発センター長 兼  
富士フイルム ホールディングス株式会社  
AI基盤技術研究所 副所長

**鍋田 敏之**



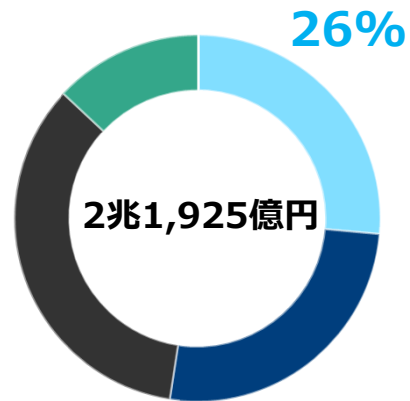
- 1. ヘルスケア領域の事業拡大**
- 2. メディカルシステム事業戦略**
- 3. 医療ITを活用した成長戦略**

# 1. ヘルスケア領域の事業拡大

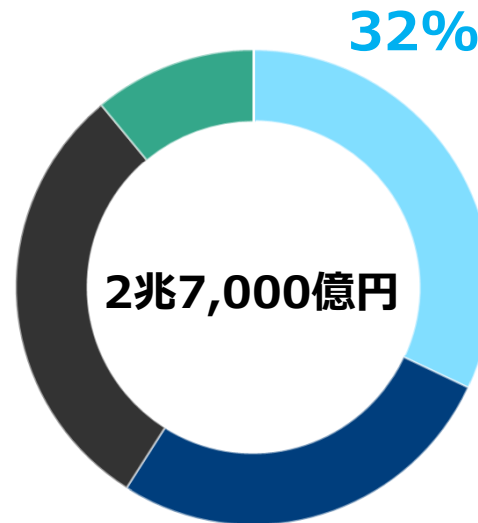
富士フイルム ホールディングス株式会社 取締役  
富士フイルム株式会社 取締役 専務執行役員  
メディカルシステム事業部長

**後藤 禎一**

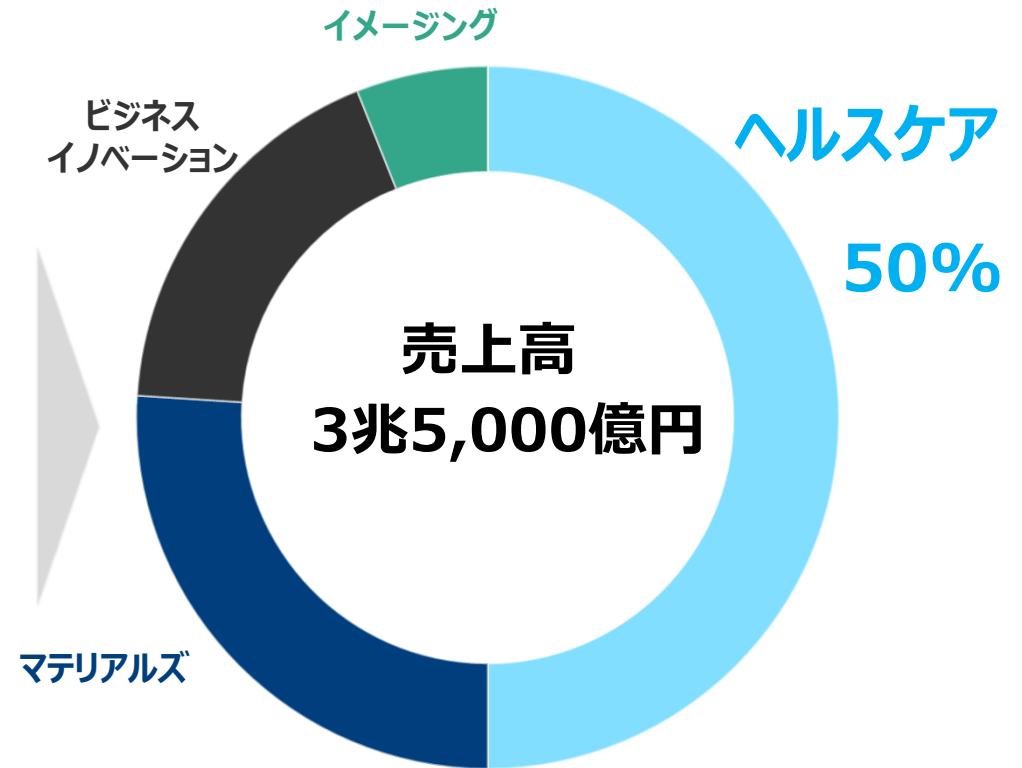
2020年度 実績



2023年度 予想



2030年度 目標



2030年度にはヘルスケアが  
売上全体の50%を占める見通し

## 「新規/将来性」事業

- **メディカルシステム**：AI/ITシステム
- **バイオCDMO**：遺伝子治療薬CDMO
- **ライフサイエンス** 等

## 「重点」事業

- **メディカルシステム**：  
内視鏡・IVD・超音波・X線機器
- **バイオCDMO**：抗体医薬CDMO  
等

## 「ノンコア」事業

## 「収益基盤」事業（キャッシュカウ）

メディカルシステム、バイオCDMOを中心に  
ヘルスケア領域の成長を加速

## 旧組織

メディカルシステム事業部

バイオCDMO事業部

再生医療事業部  
(細胞・培地)

医薬品事業部

ライフサイエンス事業部

## 新組織 (2021年4月1日～)

### 〈メディカルシステム〉

メディカルシステム事業部

### 〈ライフサイエンス〉

ライフサイエンス  
戦略本部

バイオCDMO事業部

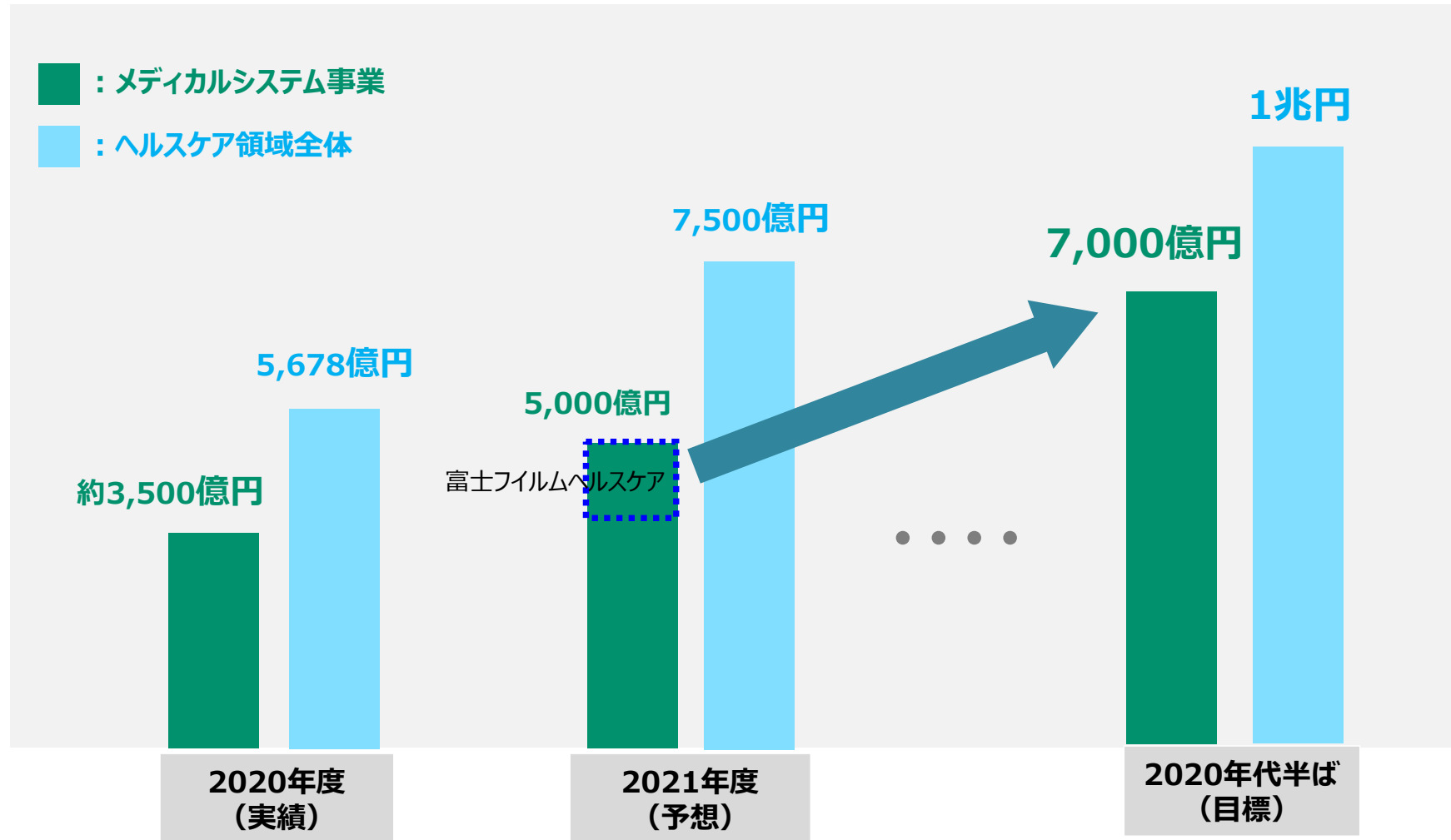
ライフサイエンス事業部  
(創薬支援：再生医療・培地・試薬※)

医薬品事業部

コンシューマーヘルスケア事業部  
(化粧品・サプリメント)

※ファインケミカル事業のライフサイエンス試薬ビジネスを統合

ヘルスケア領域をメディカルシステムとライフサイエンスに大別  
ライフサイエンスはバイオCDMO、創薬支援を中心に事業展開



**メディカルシステム事業は2020年代半ばに  
売上高7,000億円を目指す**

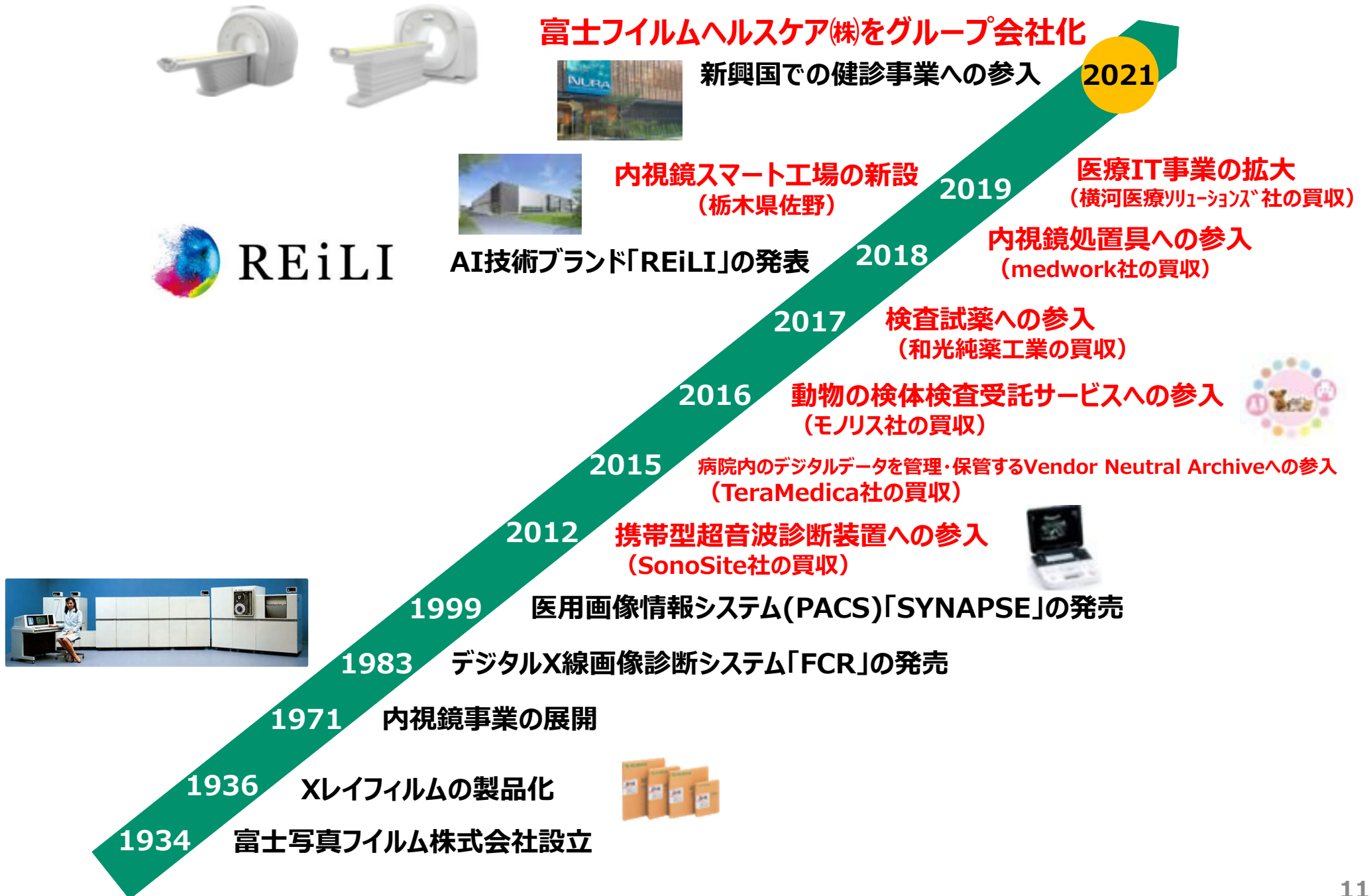


## 2. メディカルシステム事業戦略

富士フイルム株式会社 執行役員  
メディカルシステム事業部 副事業部長

**秋山 雅孝**

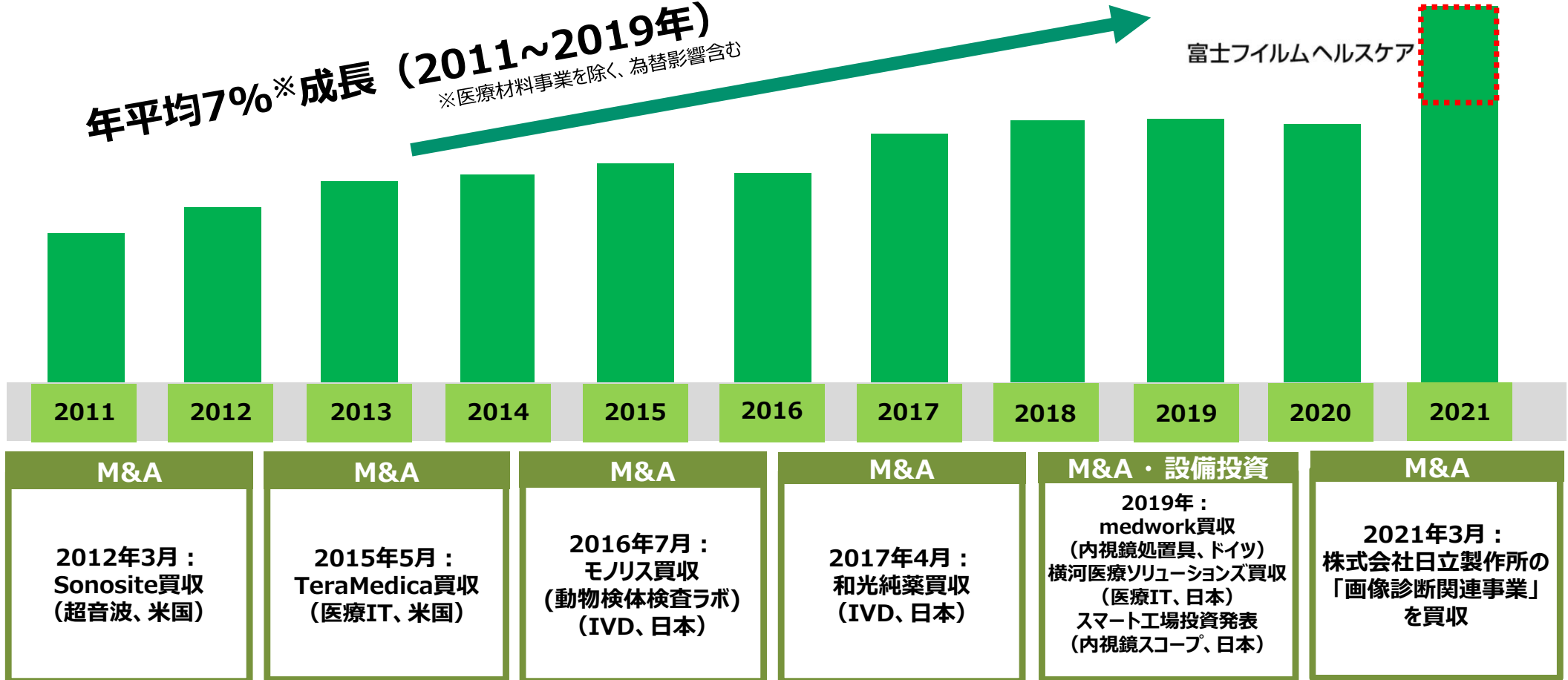
- 1988年 4月 富士写真フイルム株式会社 入社**
- 2002年 2月 FUJIFILM Europe GmbH**
- 2013年 6月 メディカルシステム事業部 モダリティーソリューション部長**
- 2014年 7月 FUJIFILM Medical Systems U.S.A., Inc.  
President & CEO**
- 2016年 11月 メディカルシステム事業部 内視鏡システム部長**
- 2018年 6月 再生医療事業部長**
- 2021年 4月 富士フイルム株式会社 執行役員  
メディカルシステム事業部 副事業部長**



## <メディカルシステム事業の売上推移>

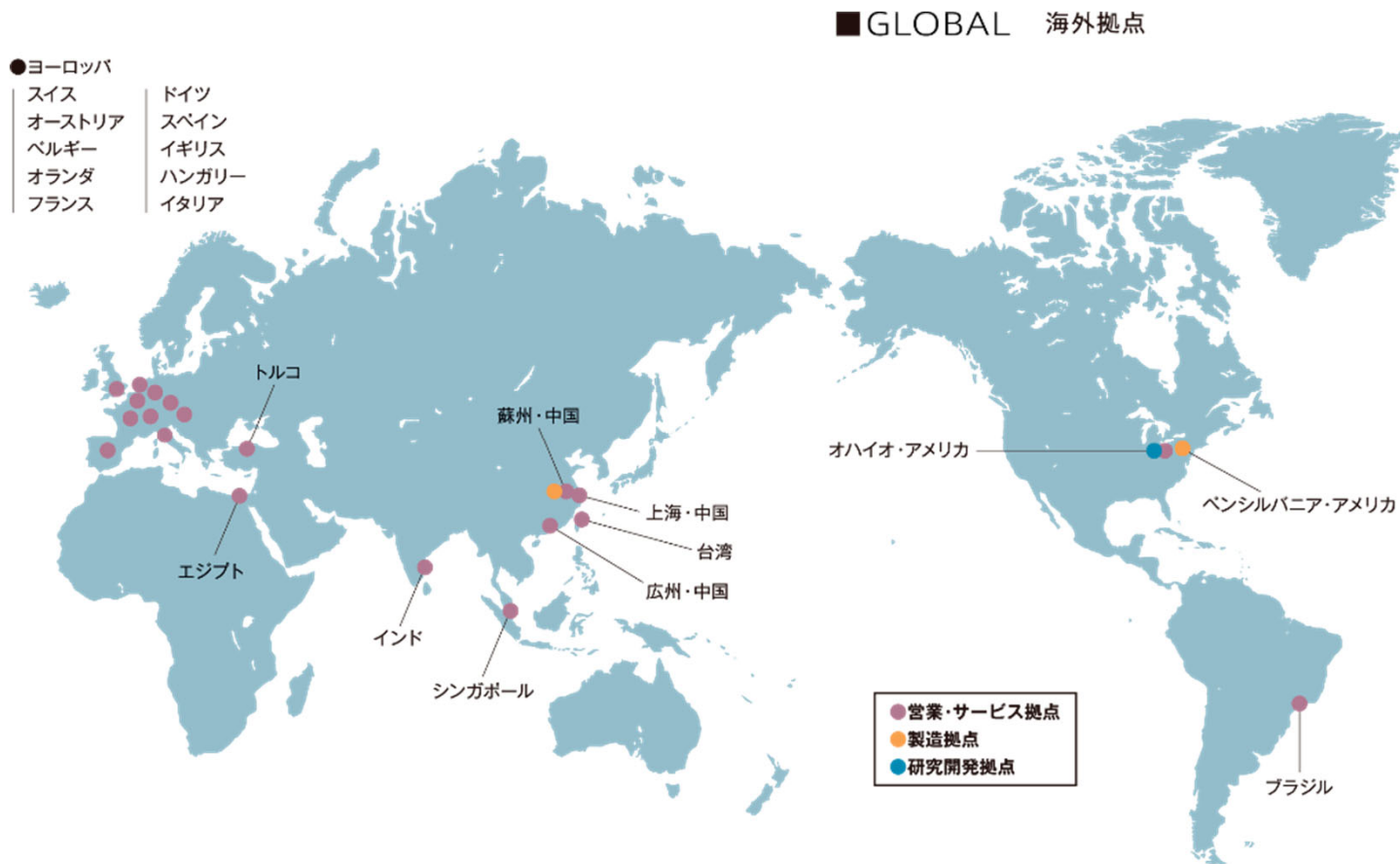
- ◆IT、内視鏡を中心に全ての事業が成長
- ◆海外売上高比率：約6割

年平均7%※成長 (2011~2019年)  
※医療材料事業を除く、為替影響含む



既存事業の成長と、M&Aなどにより強固な事業基盤を構築  
高い売上成長率と、10%強の営業利益率を稼ぎ出す中核事業

<b>商号</b>	富士フイルムヘルスケア株式会社
<b>事業内容</b>	画像診断システム（超音波診断装置、MRI、CT、X線診断装置等）、医療IT等の研究開発・製造・販売・保守サービス
<b>代表者</b>	代表取締役会長 後藤 禎一 代表取締役社長 山本 章雄



- グループ会社数  
 ・26社  
 （国内:3社、海外:23社）
- 国内主要拠点  
 ・営業/サービス拠点  
 58カ所  
 ・製造拠点  
 2カ所  
 ・研究開発拠点  
 2カ所

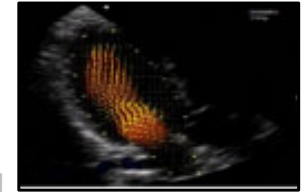
富士フイルムグループとして、  
富士フイルムヘルスケア(株)スタート

2021



次世代脳外手術室ハイパーSCOT\*を発売 2018

超音波心血流解析を発表 2015



乳腺用リニア探触子CMUT\*開発 2009



2003 超音波エラストグラフィを開発

2002 超電導磁石による  
最大空間のオープンMRI発売



1995 永久磁石によるオープンMRIシステムを発売

1983 超音波診断装置 カラー Doppler法を開発

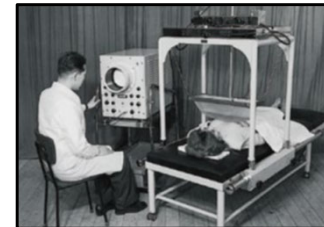
1975 頭部用X線CT装置を開発



1960 超音波診断装置を完成、胃集団検診車を製品化

1953 X線装置を製品化

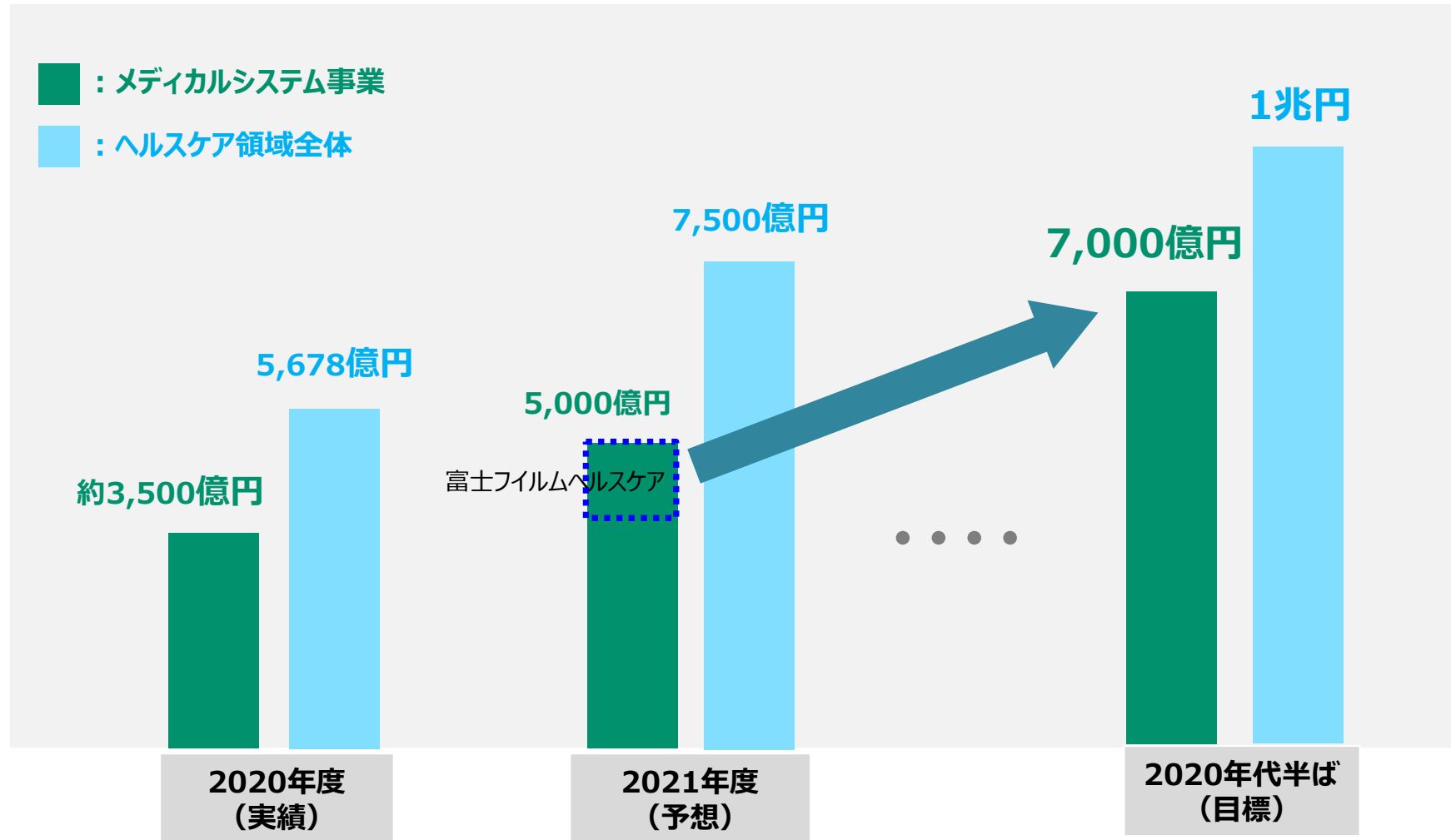
1950 (株)医理学研究所創業(後のアロカ(株))



1928 (株)渋谷レントゲン製作所創業(後の(株)日立メディコ)


\* SCOT : Smart Cyber Operating Theater、スマート手術室

CMUT : 半導体探触子



**メディカルシステム事業は2020年代半ばに  
売上高7,000億円を目指す**

- AIプラットフォーム「REiLI」を中心に据え、AI技術を活用した製品の開発を加速、「AI・ITソリューションビジネス」の収益を拡大

- 
- 当社及び富士フイルムヘルスケアの顧客基盤・販売チャネルを相互活用することで、グローバルに拡販（FF×FHCシナジー）

- IVD事業の海外ビジネス拡大

- 内視鏡事業における重要病院の攻略、デジタル診断支援ソリューションビジネスの拡大

- 新型コロナウイルスなど感染症拡大防止に寄与する製品の展開

**当社AI、IT技術を幅広い製品ラインアップに搭載して  
新たな価値を創出、社会課題の解決に貢献**



領域	画像診断システム										医療IT		IVD
製品分類	CT	MRI	X線透視	X線撮影装置	マンモ	回診車	DRパネル CR	骨密度測定	超音波システム	内視鏡	HER/HIS	PACS	IVD
FUJIFILM													
富士フイルムヘルスケア													



## FF+FHCポートフォリオの他社にはない強み

- ・DRパネル 国内シェア1位 (※矢野経済白書)
- ・CR 世界シェア1位 (※Azure)
- ・軟性内視鏡 世界で唯一の組み合わせ
- ・PACS 世界シェア1位 (※ Signify Research Report )

## PACS、画像処理技術、AI技術の強み

### 高度な画像処理・ソフトウェア技術



診断支援AI

ワークフローAI

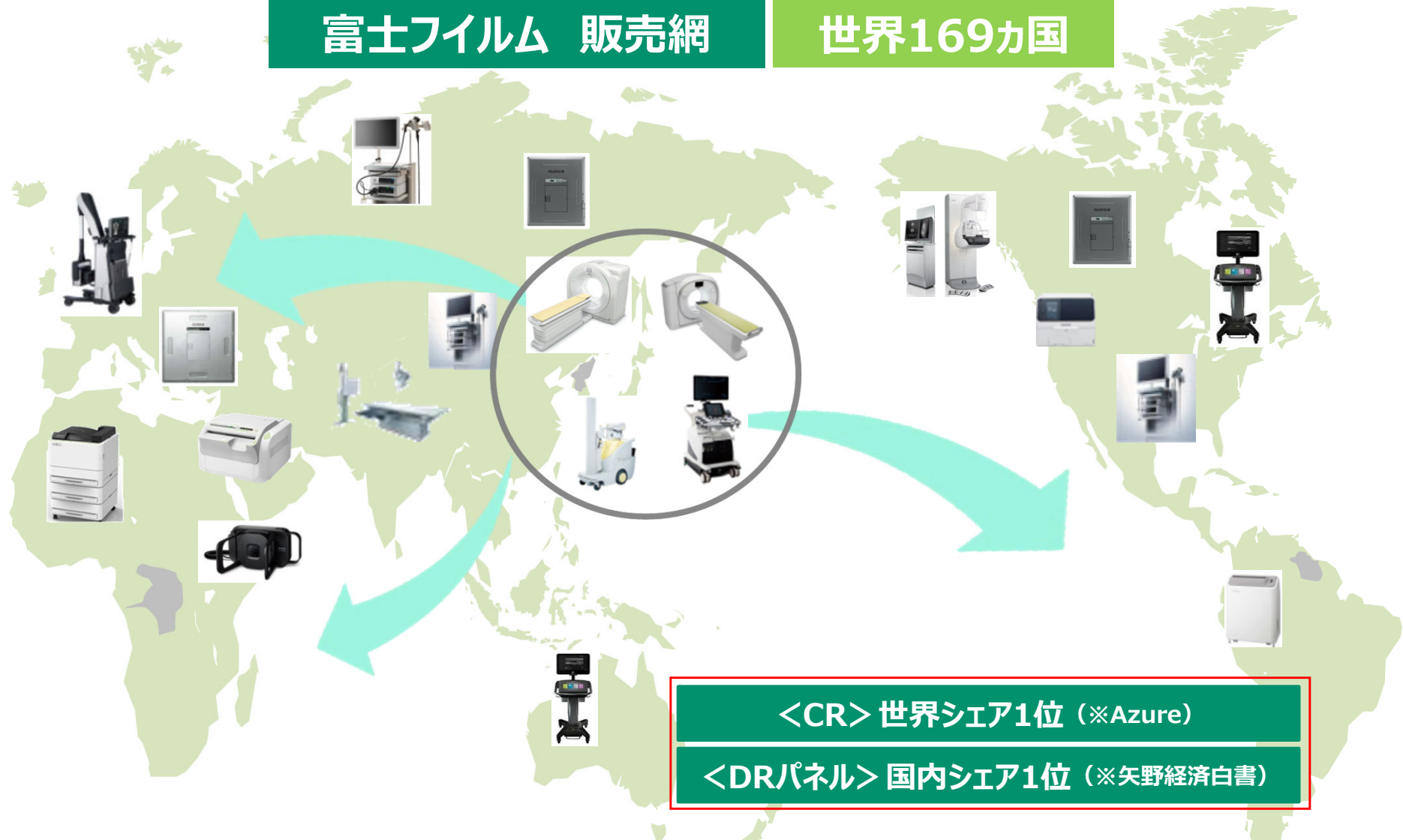
画像認識AI

powered by REiLI

相互補完的な製品ポートフォリオに、  
当社技術などの強みを掛け合わせることで大きなシナジーを創出

富士フィルム 販売網

世界169カ国



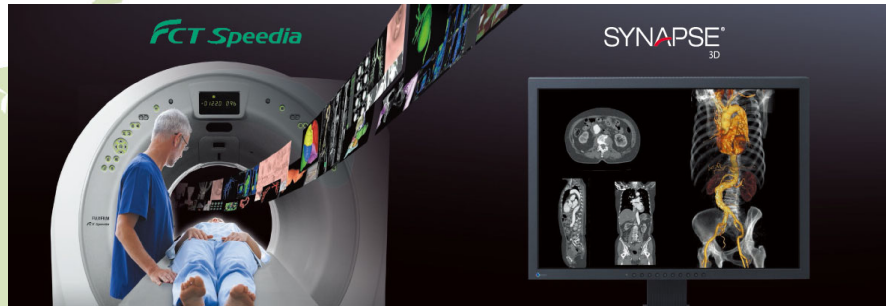
富士フィルムの幅広い販売網を活用して、FHC製品を拡販

## WWに広がる臨床研究先



内視鏡で築いたKOL・施設との強固な関係性を活かし、  
内視鏡＋放射線装置の組み合わせでの販売をWWに拡大

## 富士フィルム FHC製CT協業



WWへ展開



車載も提供



欧州・中東地域での販売実績・経験を活かし、  
WWでのCT製品の販売を拡大

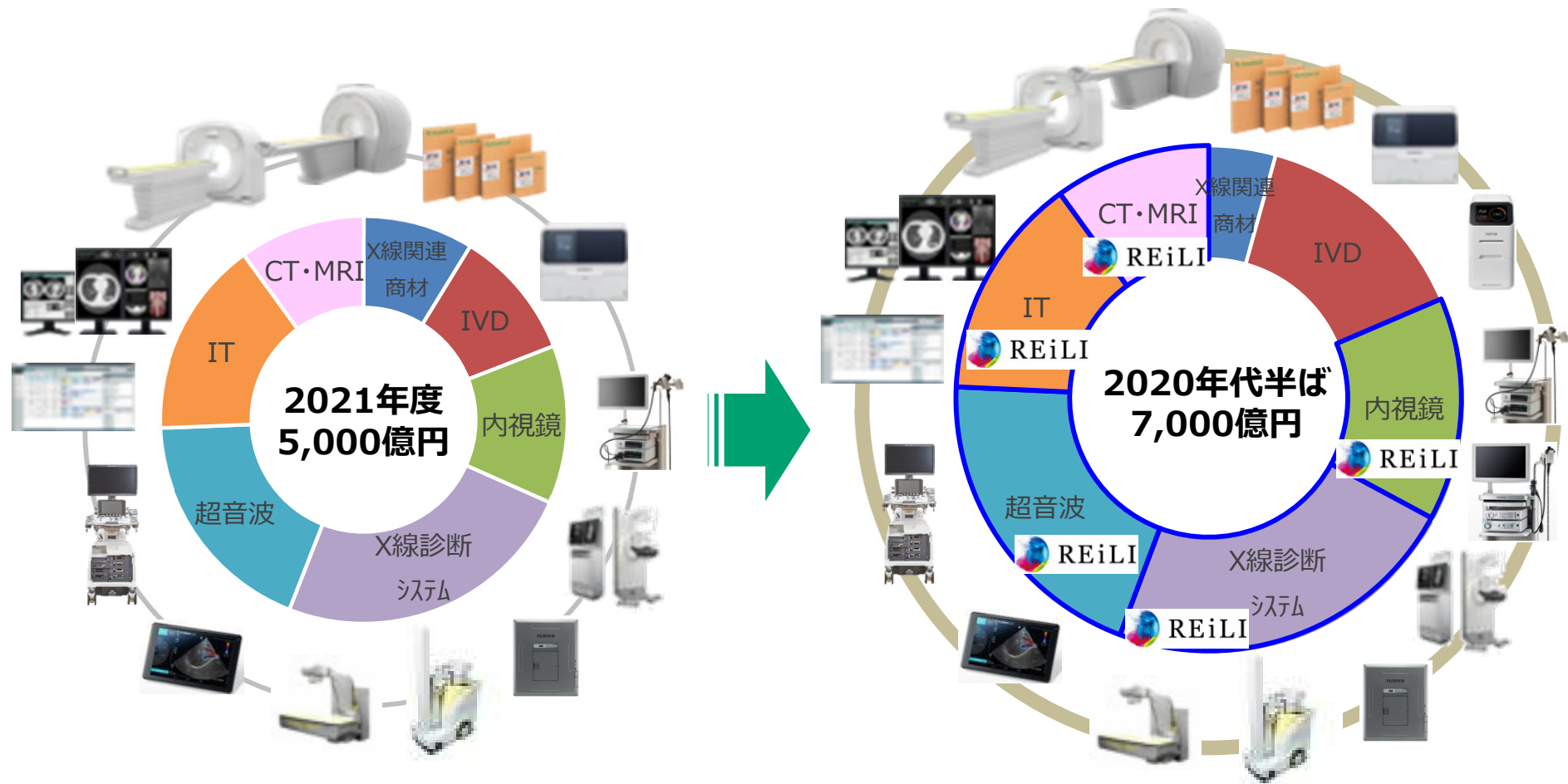
主要な疾病の早期発見により医療課題を解決する  
日本型健診サービスを世界へ



新興国第1弾として、  
インドのベンガルールに  
「NURA」をオープン。  
(2021年2月)

医療途上国における  
医療サービスへのアクセス向上、  
疾病の早期発見率向上に寄与

FF+FHCの画像診断機器と、AI技術を活用し医師の診断を  
支援する機能を搭載した医療ITシステムを活かし、  
高品質な健診サービスプロバイダーとなる



**FF+FHCのユニークな製品ポートフォリオと、  
AI・画像処理技術との連携を加速させることで、  
全事業の成長を図り、2020年代半ばに売上高7,000億円を達成**

## 3. 医療ITを活用した成長戦略

富士フイルム株式会社  
メディカルシステム開発センター長 兼  
富士フイルム ホールディングス株式会社  
AI基盤技術研究所 副所長

**鍋田 敏之**

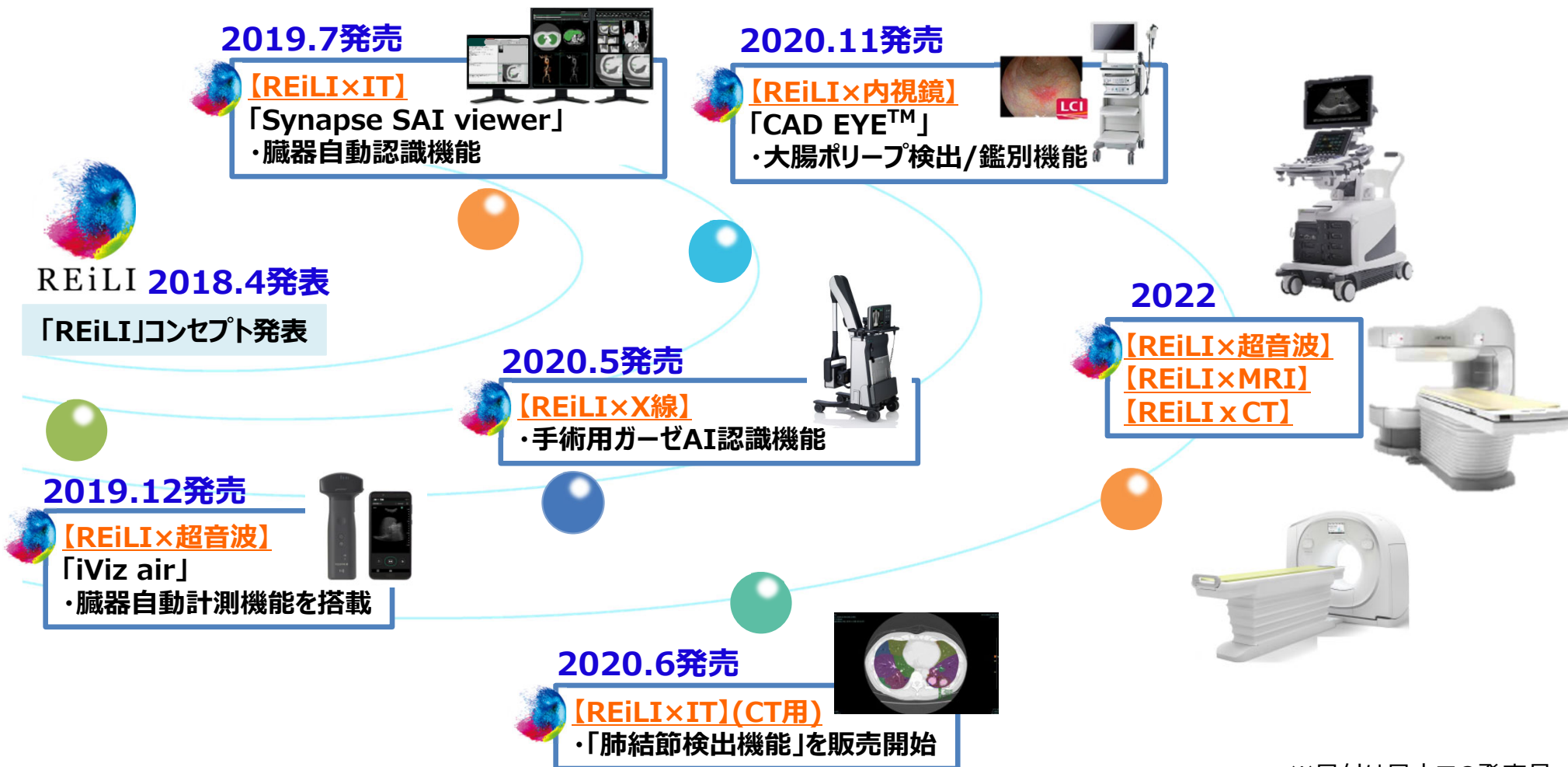


- AIプラットフォーム「REiLI」を中心に据え、AI技術を活用した製品の開発を加速、「AI・ITソリューションビジネス」の収益を拡大
- 当社及び富士フイルムヘルスケアの顧客基盤・販売チャネルを相互活用することで、グローバルに拡販（FF×FHCシナジー）
- IVD事業の海外ビジネス拡大
- 内視鏡事業における重要病院の攻略、デジタル診断支援ソリューションビジネスの拡大
- 新型コロナウイルスなど感染症拡大防止に寄与する製品の展開

当社AI、IT技術を幅広い製品ラインアップに搭載して  
新たな価値を創出、社会課題の解決に貢献



- 1. 当社が目指す未来**
- 2. 当社医療ITによる医療課題の解決**
- 3. 当社医療AIの強み**



※日付は日本での発売月

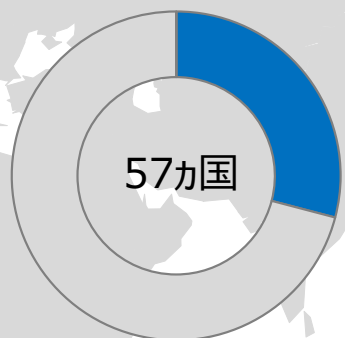
2018年4月に「REiLI」コンセプトを発表して以来、  
矢継ぎ早に当社の特徴的なモダリティにAI技術を搭載してきた  
当社のアセットに新たに加わったモダリティにも、今後展開していく



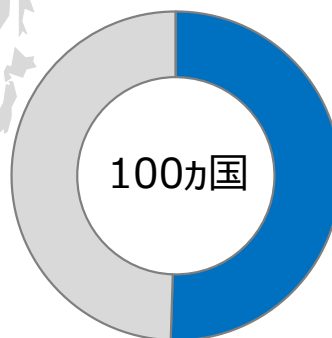
WWで50か国以上で医療AIを展開しており、鋭意拡大中  
 AI技術を直接エンドユーザーに届けるサービスとして、健診サービスをインドで開始  
 AI技術を活用した健診センターを今後、新興国に展開していく



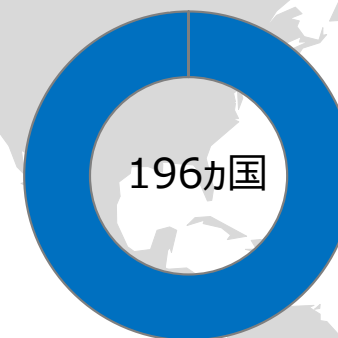
「業界をリードする医療画像診断AI技術」、「グローバルシェアNo.1の当社PACS“SYNAPSE”」  
「当社ならではの幅広い製品ラインアップを有する先進医療機器・サービス」を  
新興国を含めた世界中へ提供することで、医療アクセスの向上を実現し、社会課題の解決に貢献する



2019年度実績



2023年度目標



2030年度目標

当社の医療AI技術を活用した製品・サービスを、  
2030年度までに全ての国と地域に導入し、  
医療アクセスの向上を実現する

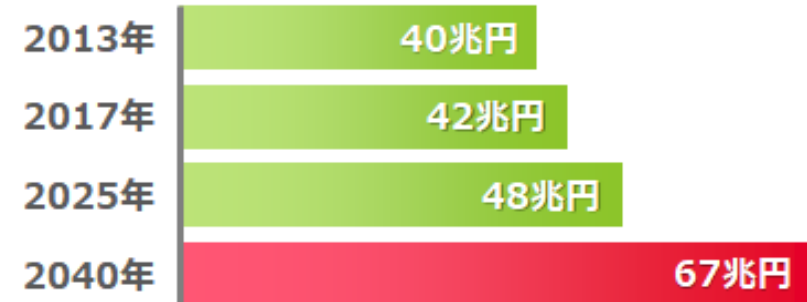


## 2. 当社医療ITによる 医療課題の解決

## 高齢化や人口増加による医療費の増大

- ・ 2016年のWHO加盟国の平均寿命は**72歳**、2008年時点から**4年**の伸び  
(日本：84、英国：81、米国：79、中国：76、インド：69)<sup>1</sup>
- ・ 医療費の年平均増加率(2014年~2018年)は、  
西欧：**2.4%**、北米：**4.9%**、  
アジア・オーストラリア：**8.1%**、中東・アフリカ：**8.7%**<sup>2</sup>

【国民医療費の見通し(日本)】<sup>5</sup>



## 医療サービスの地域間格差

- ・ 世界の医療費の**77%**を先進国が占めている(2014年)  
一方、発展途上国が占める割合は2014年：**23%**から2020年：**32%**に増加が予想されている<sup>3</sup>

## 医師や看護師などの人材不足と過酷な労働環境 (需給ギャップ)

- ・ 世界では**1,700万人**の医療従事者が不足(うち、アフリカ・東南アジアだけで**1,100万人**)<sup>4</sup>

出所：1. Life expectancy data, World Health Organization, <http://apps.who.int/gho/data/node.main.688?lang=en>

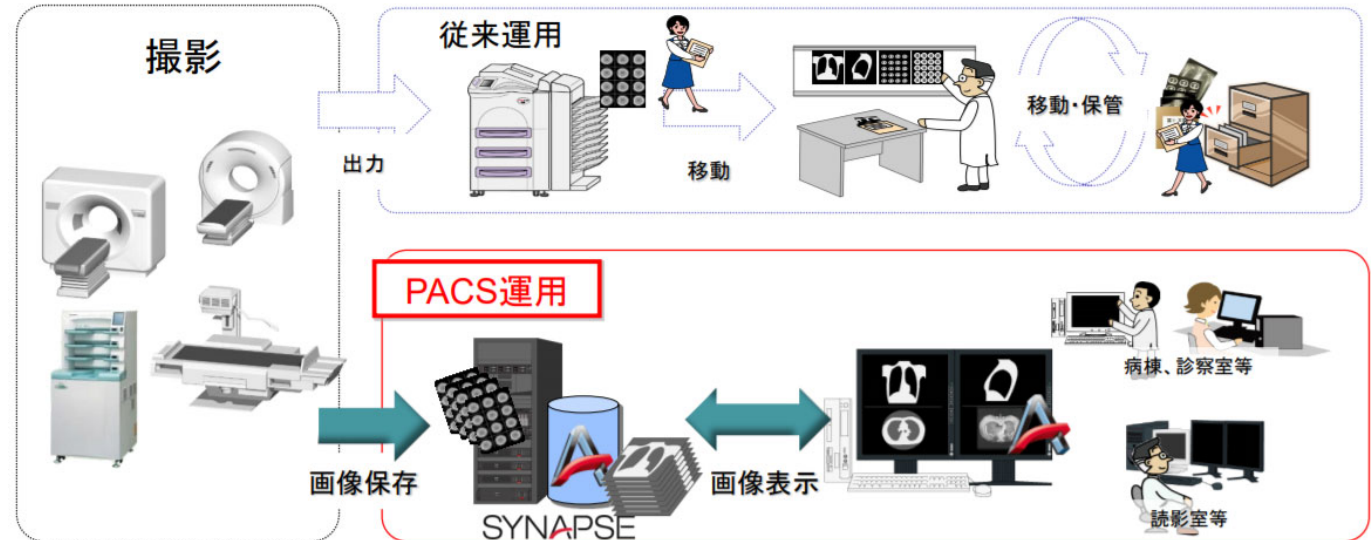
2. 2015 Global life sciences outlook: Adapting in an era of transformation. Deloitte DTTL, 2014 3. Informa Plc Market Line Extracted October 2014

4. Health workers density and distribution, World Health Organization 5.厚生労働省保険局調査課「平成29年度 医療費の動向-」 「2040年を見据えた社会保障の将来見通し」

医療費を含む社会保障費の増大や人材不足が世界的に切迫した課題に  
「重症化した後の治療」から「予防・早期診断・早期治療」に重点を  
シフトすることで、公的医療費を抑制

## 医用画像情報システム(PACS)

**P**icture 【画像】  
**A**rchiving 【ファイル保管】  
**C**ommunication 【通信】  
**S**ystem 【システム】



Copyright © 2015 FUJIFILM Co.,

## 医用画像情報診断システム「SYNAPSE」シリーズ

医用画像情報システム

SYNAPSE

診療情報アーカイブシステム

SYNAPSE VNA



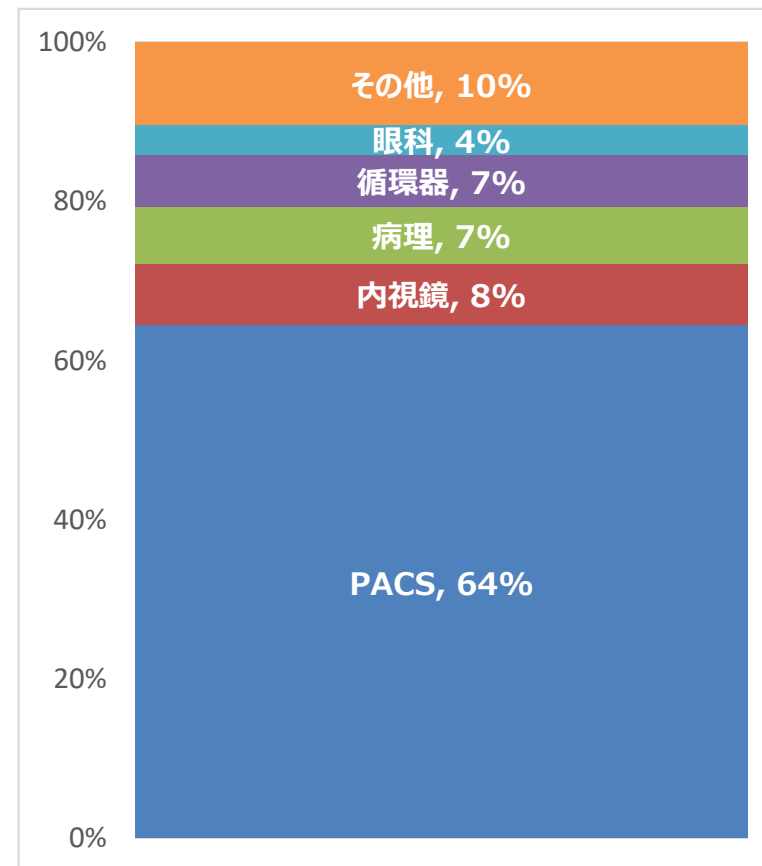
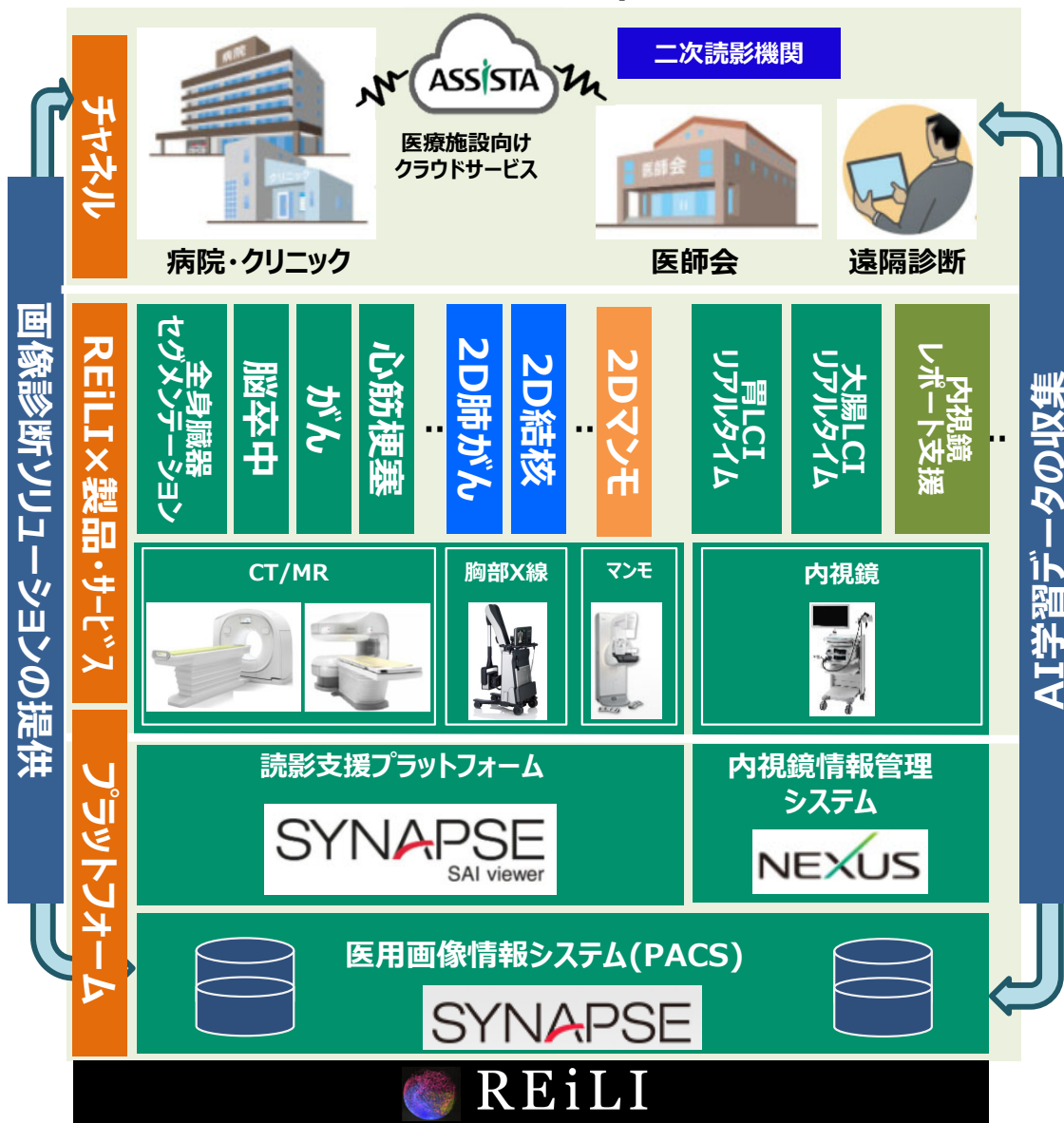
3D画像解析システム

ボリュームアナライザー  
SYNAPSE VINCENT



病院内の画像データを管理・保管するプラットフォームである  
医用画像情報システム「SYNAPSE」の普及を通じて、  
医療従事者の負担を軽減

## 医療ITの将来像



部門システムのデータ容量の一例

院内ITシステムの中で、PACSの扱うデータ量が最も多い  
⇒院内の診療情報管理の観点で、インパクトの大きいシステムである



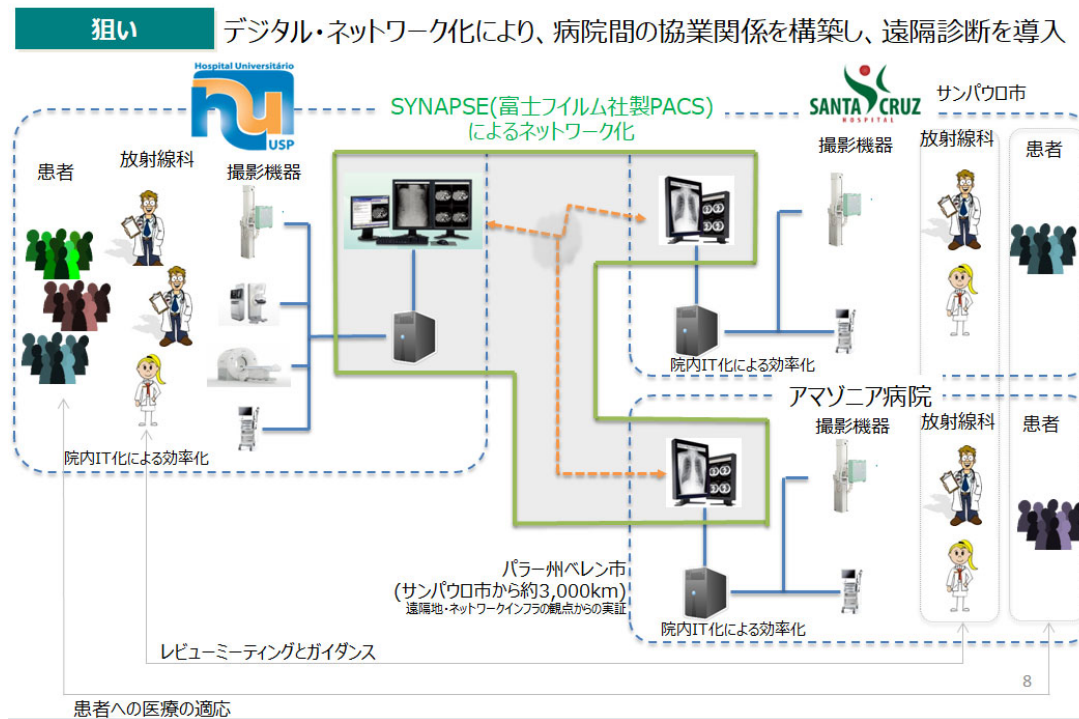


※1 2021年3月時点 「Synapse」シリーズ設置台数  
 ※2 2017、2018、2019年度Signify Research Report調べ  
 ※3 2020年9月時点 当社調べ

**当社PACS「SYNAPSE」は、ワールドワイドで5,800サイトに展開※1  
 各エリアの有力病院で高い評価を受け、世界シェアNo.1を継続中※2  
 内視鏡システム「NEXUS」は国内特定機能病院層でシェアNo.1 ※3**

## 紹介事例：ブラジルでの病院のネットワーク化、遠隔診断の導入

ブラジル随一のサンパウロ大学と地方病院にSYNAPSEを導入



### ブラジルの医療課題とニーズ

- ・ 非感染症の増加→**画像診断による早期発見**
- ・ フィルムによる診断→**ワークフローの効率化**
- ・ 広大な国土に都市が散在、都市と地方における医療格差→**遠隔医療**

### 当社PACSの価値

- ・ **画像診断能力の向上**：過去画像参照等
- ・ **診断ワークフローの迅速・効率化**：撮影後すぐに診断、現像・移動コスト削減
- ・ **地方病院の高度医療アクセス向上**：病院間のネットワーク構築

医療リソースが限られた地域での質の高い診断の提供をサポート  
ビジネスモデルのパッケージ化、ワールドワイドでの展開により  
医療格差の解決に貢献

### 3. 当社医療AIの強み

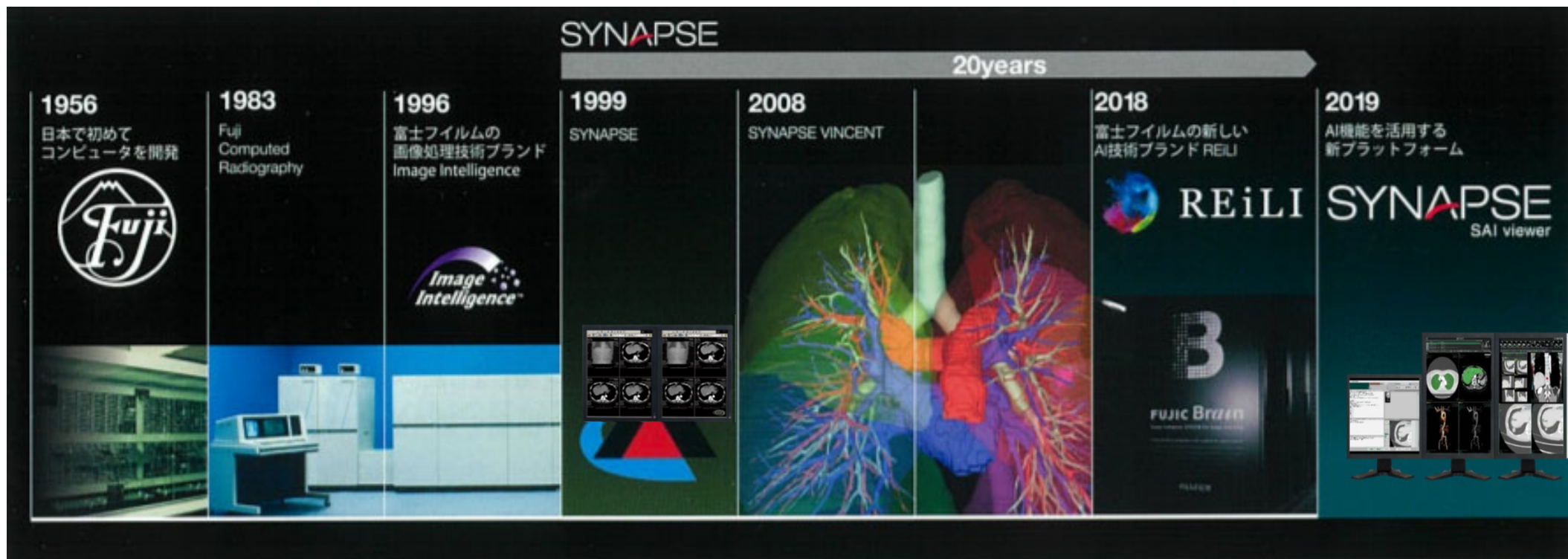


## ① 画像技術

・様々な領域で培った画像技術と、デジタルイメージング技術による「技術資産の集大成」。

## ② グローバル展開を見据えた開発体制

・1990年代後半、米国での開発を皮切りに、地域のニーズに応じて柔軟に製品を展開。

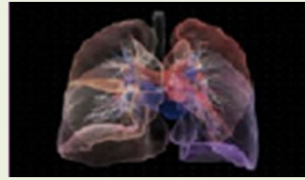


## ③ 多彩なIT人材とAI人材の融合

- ・CR(1983～)、PACS(1999～)、3D(2008～)と先陣を切って医療ITを製品化。早くからソフトウェア開発技術者を内部で育成。
- ・情報工学出身者の他、デジタル回路の開発経験者(物理・電気)など、多彩なバックグラウンドを持つ人材の育成・蓄積。
- ・次世代医療AI拠点の設立。最先端のAI技術を学び、次世代の医療AI研究をリードするAI・ICT人材の育成。

80年以上に及び「画像技術」、グローバル展開を見据えた「開発体制」、ITやAI分野での「多彩な人材融合」により、長きにわたって世界シェアNo.1を実現

## 当社AI基盤



画像AI



言語AI



分析AI



ITからアクセスできる  
現場固有データ



国内外No.1シェア PACS  
SYNAPSE®



3D画像解析システム 内視鏡情報システム  
ボリュウムアナライザ VINCENT  
SYNAPSE NEXUS

機器固有データ



オープンMRI



内視鏡のLCI



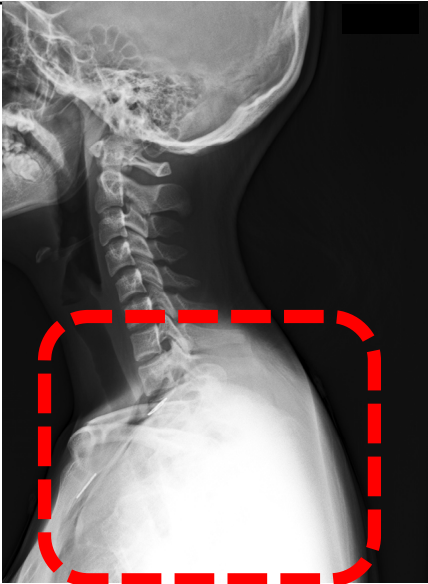
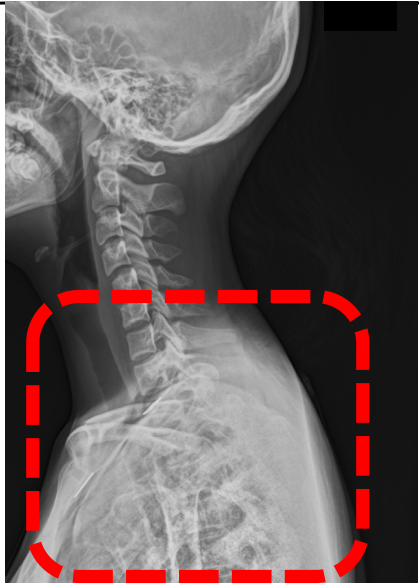
CT



DR

各種医療機器と医療ITの両方を持っている当社ならではの 방법으로  
医療固有のデータに今まで以上にアクセスしていく

- AIの検出精度向上には、「データの質や学習方法」が重要  
学習データ数が多くても、データの質が伴わなければAIの精度は上がらない

学習させる画像の質	<p><b>不鮮明な画像例</b></p> 	<p><b>鮮明な画像例</b></p> 
学習データ数	21万症例	2万症例
感度	94.9%	94.9%
特異度	20%	87.5%

健常者の8割を異常と判定してしまう!?

※ 感度：陽性を陽性と判定する割合、特異度：陰性を陰性と判定する割合

(2018年4月 富士フィルム調べ)

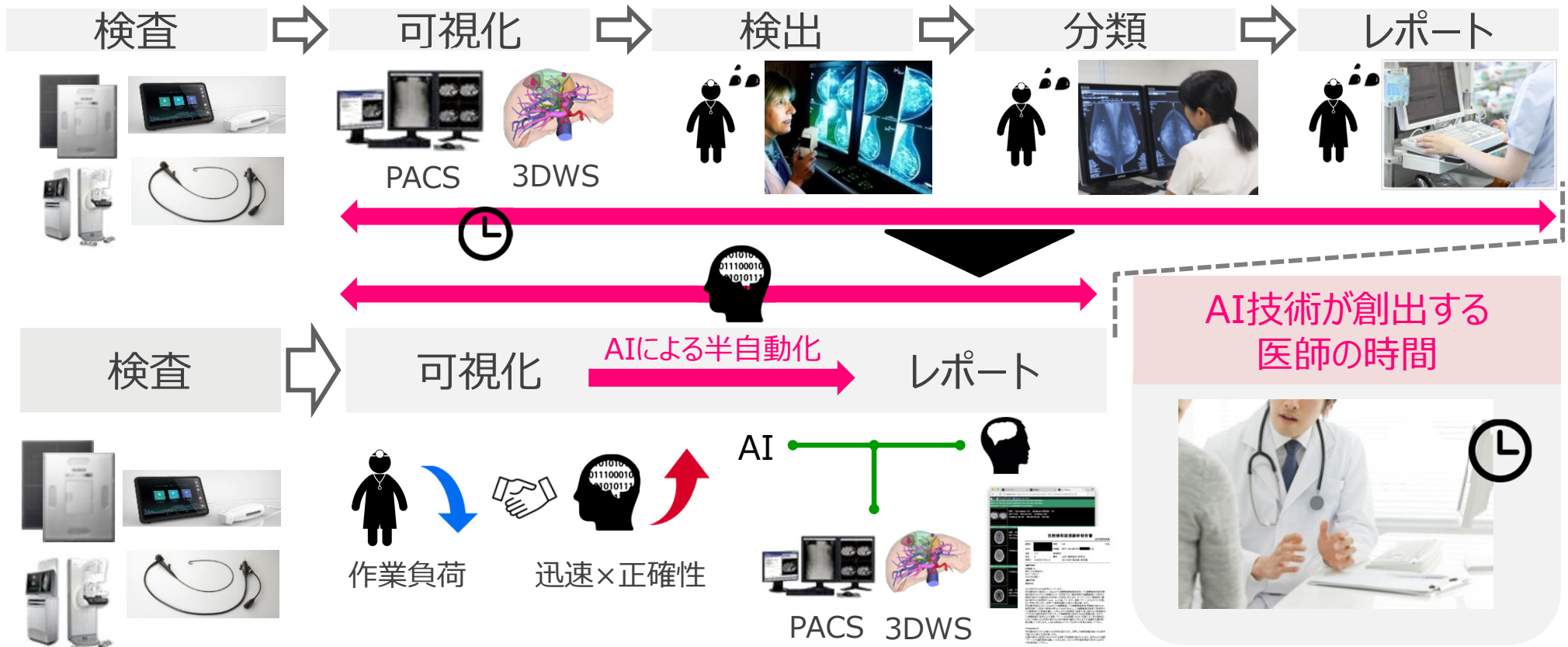
AIが高い検出精度を実現するには、良質な画像が必要

日本のCT検査数と放射線科医の推移

2007	2018	(日本)
年間CT検査数		
1,700万件	3,000万件	+72%
放射線科医の人数		
4,810人	6,813人	+42%

増えつつあるCT/MRI検査数・画像枚数に対して放射線科医の数が足りていない現状がある。

出展：厚労省 社会医療診療行為別統計、医師・歯科医師・薬剤師調査



検査画像の読影、診断、レポート作成の全体にわたってAI技術によりサポート  
医師の負荷を軽減することで、本来の診断にかけられる時間の創出を目指す

Approach **1**

## 臓器セグメンテーション (SEGMENTATION)

### 解剖学的構造の認識

医用画像内に存在する様々な臓器・組織を正確に抽出します。従来技術では困難であった疾患を伴う症例でも安定した抽出が可能になります。

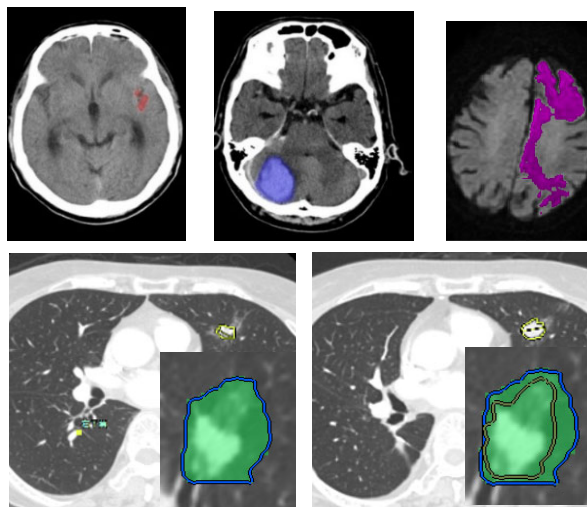


Approach **2**

## コンピュータ支援診断 (Computer-Aided Diagnosis)

### 病変の検出・計測を支援

癌や梗塞部位、狭窄部位といった疾患を見つける技術(CAD)や、現状の病態を定量的に表現する技術開発を進めています。

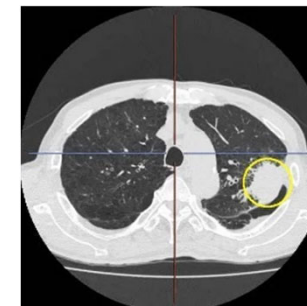


Approach **3**

## ワークフローの効率化 (Workflow)

### レポート作成を支援

臓器抽出技術、CAD技術・定量化技術を駆使して、放射線科医の最終outputである読影レポートの生成をサポートします。



左肺胸膜下に、不整形でスピキュラを有する最大径4.2cmの腫瘤が認められます。胸壁に接していますが、浸潤は認めません。...

2019.3  
薬機法認可

画像診断を支援する「AIプラットフォーム」

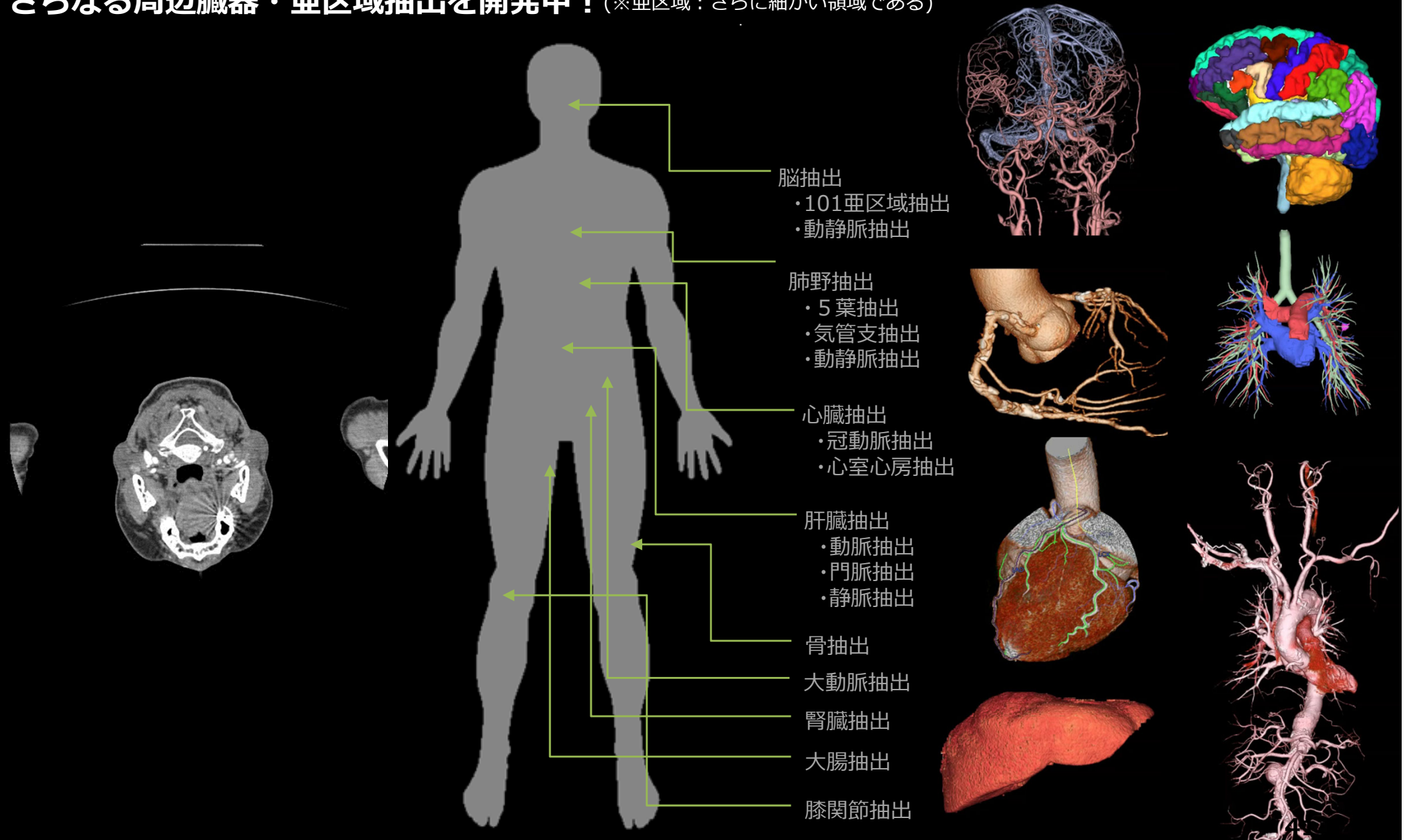
SYNAPSE  
SAI viewer





# 全身の主要臓器の抽出技術はほぼ完成

さらなる周辺臓器・亜区域抽出を開発中！（※亜区域：さらに細かい領域である）



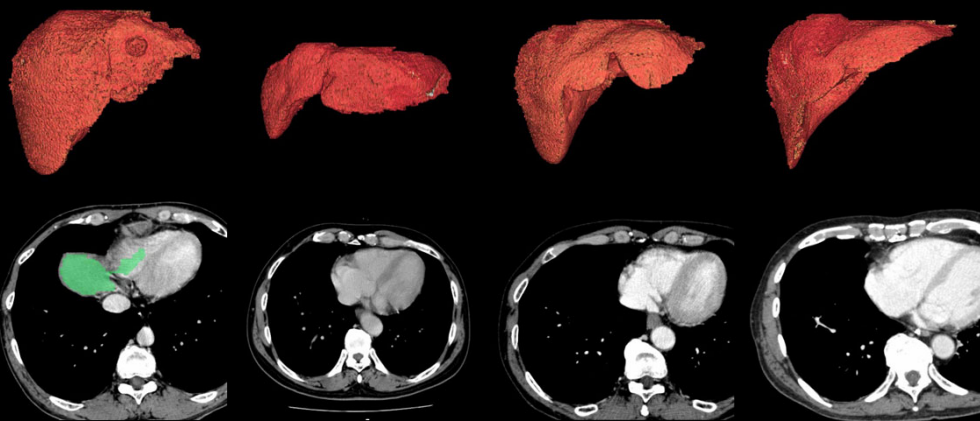
# Approach 1 セグメンテーション技術の最前線 (CT肝臓解析)

## CT画像を用いた肝部分切除術の術前シミュレーション 面倒な手作業での臓器・血管抽出を、AI技術にて全面サポート！

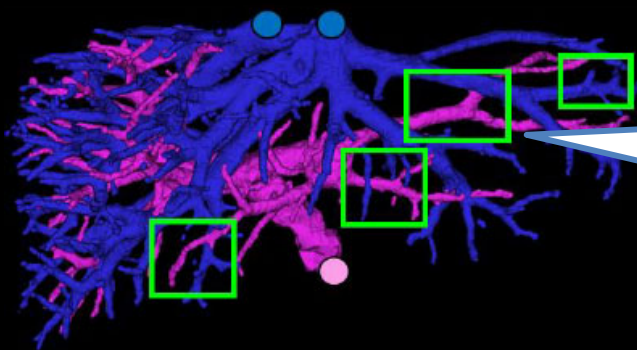
### 技術1

#### 肝臓領域抽出

AI技術で、さまざまな形状パターンでも抽出が可能。



さらに、より高度な独自技術を用いて、肝臓内の各血管を自動抽出。

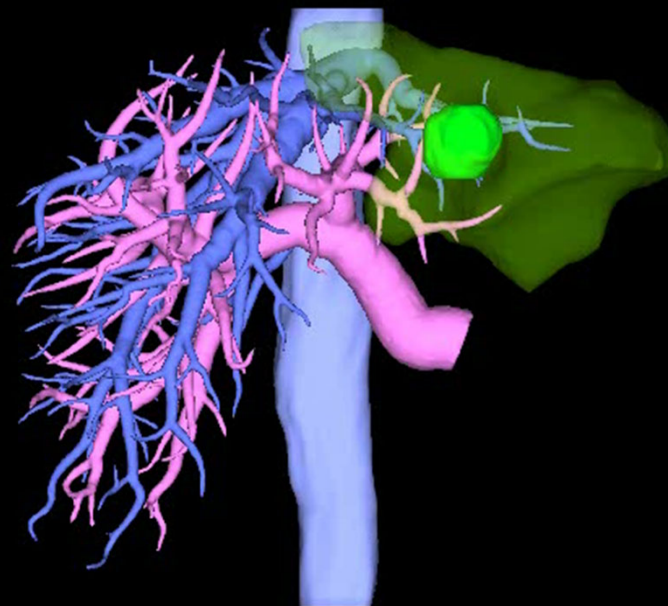
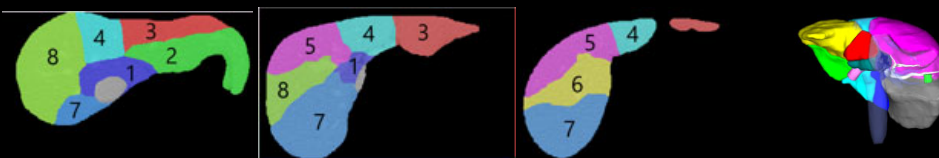


動脈(門脈)と静脈が互いに交差(接触)する部分も分離可能。

### 技術2

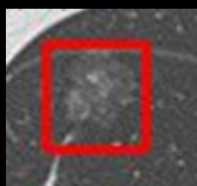
#### 肝臓領域抽出

肝臓領域と血管領域の情報を駆使し、さらに外科医の思考と同様の考え方で肝臓領域内部を機能毎の領域 (クイノー分割) する技術も確立。



# AI技術を用いて、高い集中力と専門性を必要とする肺結節の検出をサポート

## さまざまな肺結節陰影



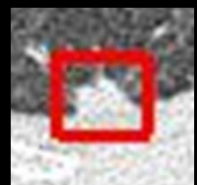
すりガラス



Part Solid



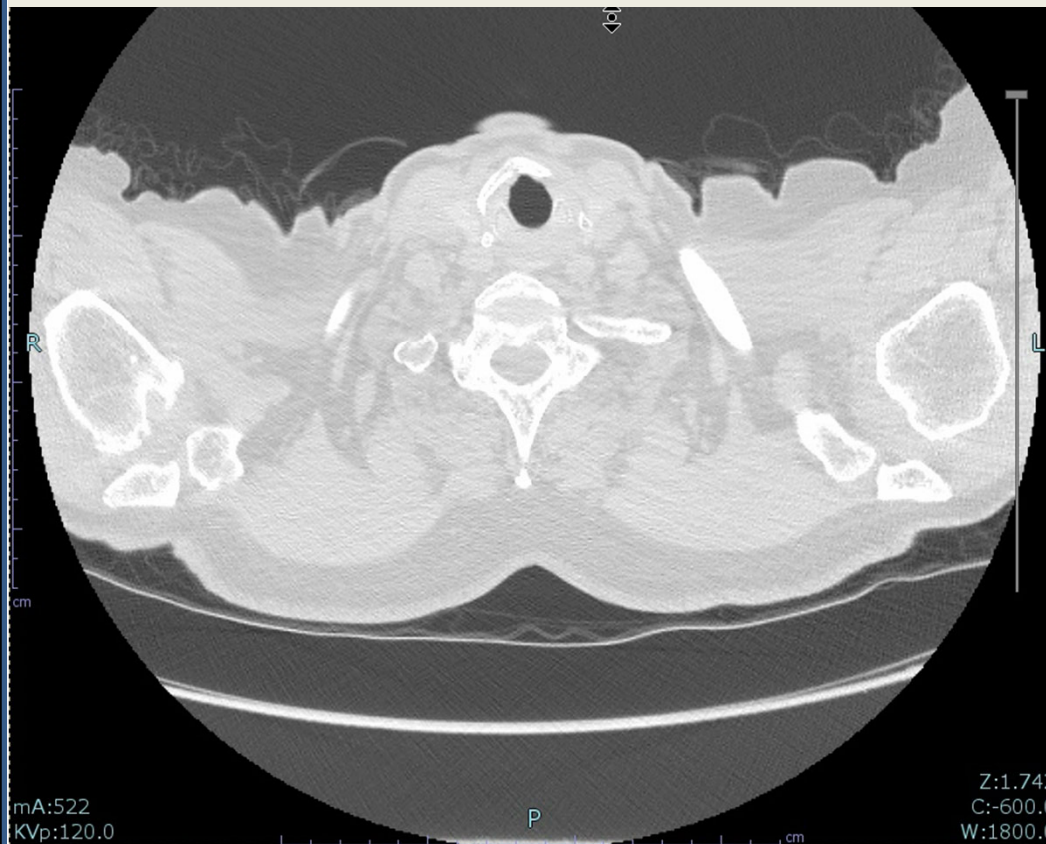
微小結節



胸壁接触

## AIの特徴

医師(人間)が見逃しやすい、微小結節、淡いすりガラス型結節等、小さいもの、淡いものも検出可能!



**医師の肺結節見逃しリスクを低減**

肺結節検出機能  
販売名：肺結節検出プログラム FS-AI688型  
承認番号：30200BZX00150000

\*1: 胸部CTにおける肺結節候補検出プログラム  
(2021年4月 当社調べ)

# Approach 3 ワークフローの効率化：肺結節 所見文候補の提示

SAI SYNAPSE SAI Viewer

Unspecified, Pat\_2019.11.08.10.11.07 FF-NU-3B39FA0CB1E209CE4F230019A8C2EE56 CT 2013/08/23 ×

All | CT | MR | PT | CT+MR | CT+PT

検査日時	モディ	検査項目群
2015/02/10 14:5	CT	CT-ORION (TEST)
2013/08/23 14:2	CT	CT-ORION (TEST)
2013/07/25 15:3	CT	UNKNOWN

SynapseRP,2Monitor,CT Stacked Series

Unspecified, Pat\_2019.11.08.10.11.07 NAGOYA UNIV HP 64B CT-ORION (TEST) Axial, 5.0, 2013/08/23 14:30:59

LOC:100 THK:5.0 (0.00,0.00,1.00)

RD:320.31 Tilt:0.0 Z:1.395 mA:351 C:20.0 W:320.0 DFOV:32.0x35.9cm IM:21 SE:2

Unspecified, Pat\_2019.11.08.10.11.07 NAGOYA UNIV HP 64B CT-ORION (TEST) Axial, 5.0, 2013/08/23 14:30:59

LOC:100 THK:5.0 (0.00,0.00,1.00)

RD:320.31 Tilt:0.0 Z:1.395 mA:351 C:-600.0 W:1600.0 DFOV:32.0x35.9cm IM:9 SE:4

Unspecified, Pat\_2019.11.08.10.11.07 NAGOYA UNIV HP 64B CT-ORION (TEST) Axial, 5.0, 2013/08/23 14:30:59

LOC:100 THK:0.5 (0.00,0.00,1.00)

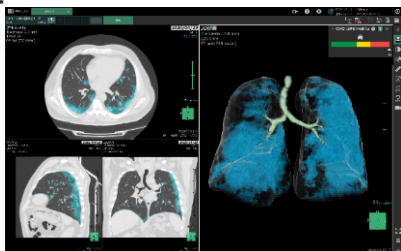
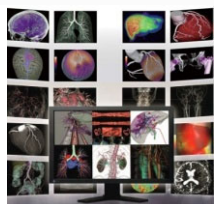
RD:320.31 Tilt:0.0 Z:1.395 mA:351 C:-600.0 W:1800.0 DFOV:32.0x35.9cm IM:141 SE:5

再構成画像

Unspecified, Pat\_2019.11.08.10.11.07 NAGOYA UNIV HP 64B CT-ORION (TEST) Axial, 5.0, 2013/08/23 14:30:59

RD:320.31 Tilt:0.0 Z:1.395 mA:351 C:-600.0 W:1800.0 DFOV:32.0x35.9cm IM:141 SE:5

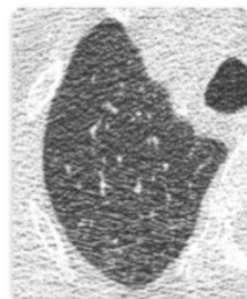
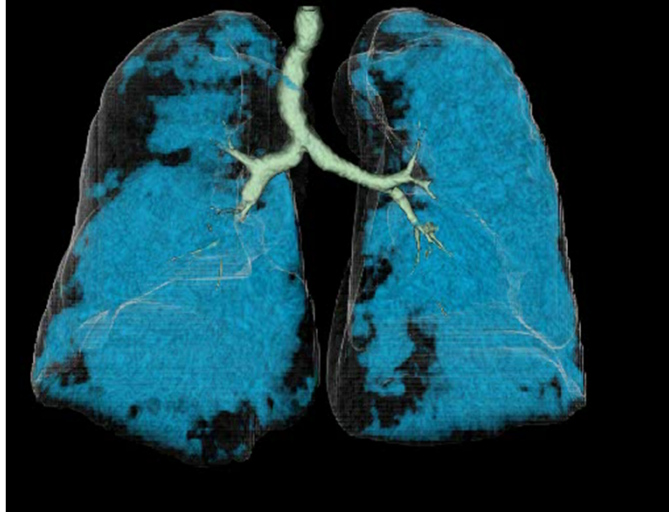
ボリュームアナライザー  
SYNAPSE VINCENT



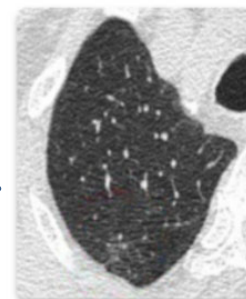
## インドAI検診センター NURAに設置



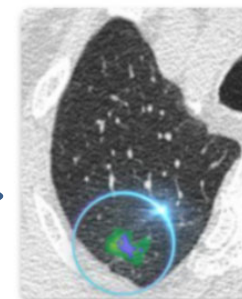
COVID-19肺炎画像解析プログラム FS-AI693型  
国内承認取得済のAIエンジンに  
インド現地の症例データを加えて再学習



超低線量  
0.1mSv



AIノイズ除去技術



AI異常検出

3D画像処理などの自社開発AI技術をFHCのCTに組合せ、  
新たな価値を今後矢継ぎ早に提供していく  
COVID-19肺炎画像解析プログラム※1の国内承認を取得(21年  
6月発売予定)、インド向けにチューニングしたエンジンも開発完了し、  
NURAに21年7月設置予定

報道関係各位

富士フイルムと国立がん研究センターが  
「AI 開発支援プラットフォーム」を共同開発  
研究機関や医療機関における画像診断支援 AI 技術の研究開発をサポート



(例)ある医療機関の疾患部位分布

## ◆ AI開発支援プラットフォーム

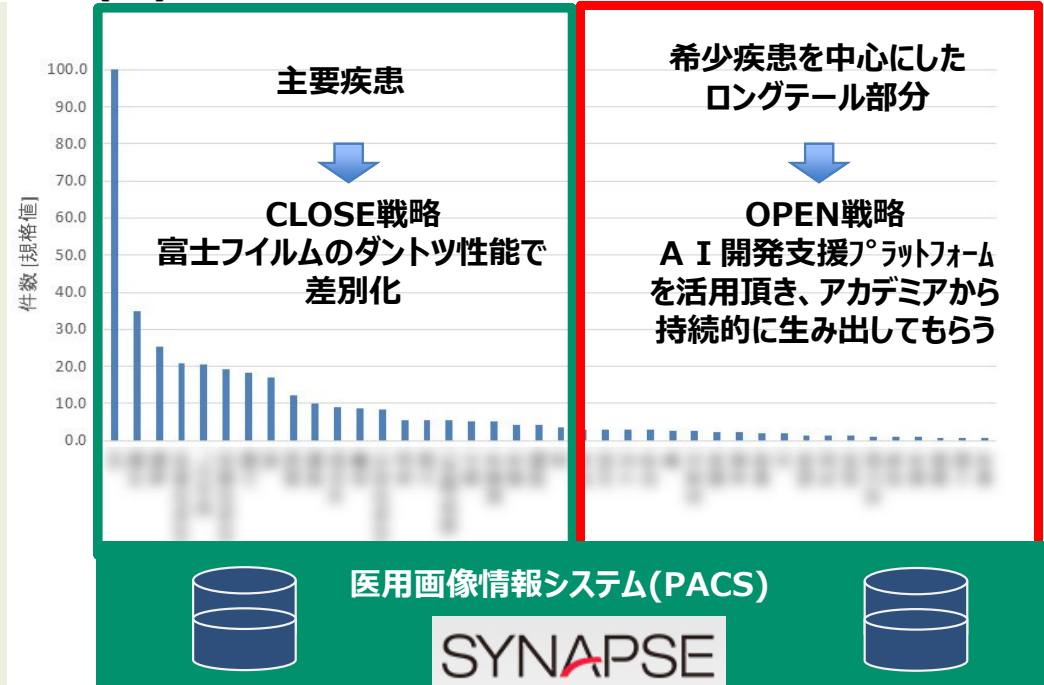
最先端の医師の膨大且つ質の高い臨床情報をAI化  
できる仕組みを開発し、**医療のアンメットニーズに貢献。**

### ✓ アカデミア(大学病院等)

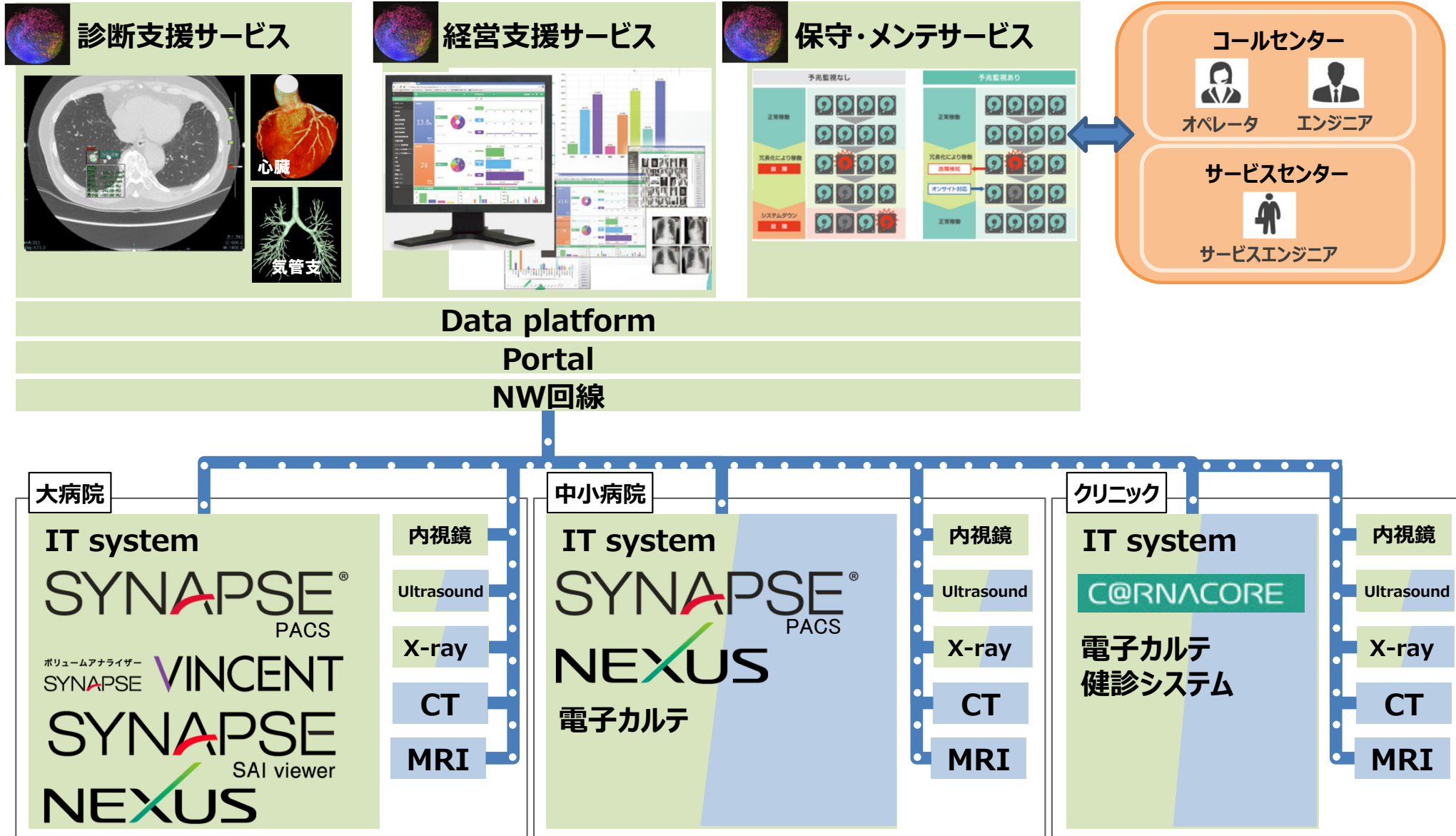
プログラミングやアルゴリズムの専門的な知識がなくとも、AI  
技術を活用した画像診断支援技術が開発でき、**希少  
疾患等アカデミアの臨床研究が大幅に加速。**

### ✓ 富士フイルム

今年度中に本プラットフォームを製品化。**プラットフォーム  
を利用してアカデミアが開発した疾患AIを当社が  
製品化して市場に提供。**



最先端の臨床研究用に生み出された希少疾患含めた全ての疾患AI  
を矢継ぎ早に商品化し、当社世界No1シェアPACSや当社医療機器  
に搭載する事で、革新的な製品開発の加速を狙う



全顧客層のITシステムおよびモダリティ群をネットワークに接続し、クラウドから各種サービスを今後提供する

## ✓ AI技術を活用した価値創出による持続的な事業成長

当社の強みは「ITと機器両方を持つユニークなポジション」にあり、AI技術を活用した**掛け合わせによる付加価値創出**を推進し、**グローバル市場での事業成長**を実現する。

## ✓ 世界をリードするヘルスケアカンパニーへ

グループの総力をあげて、**誰もが高品質な医療サービスを楽しむ未来を創るヘルスケアカンパニー**を目指す。

AI技術の開発、活用、展開を加速。メディカルシステム事業を通じて、「医療サービスの地域間格差解消」や「疾病の早期発見」などの医療課題の解決に大きく貢献していく



# FUJIFILM

Value from Innovation